

ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成 (インテンシブコース)

養成目標

- 従来、ゲノムは胚細胞変異、遺伝性疾患を取り扱うものとされていた。しかし、遺伝子解析技術の目覚ましい進化とともに、胚細胞変異・体細胞変異の境界が曖昧なものとなってきた。がん診療においても胚細胞性変化を含むゲノム情報ががん診療を行う上で重要な役割を担うようになってきている。さらにその情報を活用することで、血縁者に対する未発症者のスクリーニング・先制医療がリスク軽減・健康増進に重要となる。しかし、その情報を有効活用し、担当できる人材が少ないのが現状である。このため、(1)臨床遺伝学を理解し、(2)ゲノム検査結果を正しく解釈し、(3)正しい診断ができ、(4)発症者のみならず未発症者に対し、その不安を軽減し、リスク軽減・発症予防につなげる先制医療の診療計画を立案することが重要となる。また(5)普及が進むがん遺伝子パネル検査の二次的所見など起こりうる倫理的問題を解決できる人材が必要である。診療現場に必要なのは、座学だけでなく、実地診療にともに従事・経験することにより育成された人材であると思われる。

コースの特徴

- 三重大学医学部附属病院は、2005年にオーダーメイド医療部を新設し、ゲノム情報を活用した個別化医療の推進に努めてきた。毎年200件の遺伝カウンセリングならびに遺伝学的検査を実施してきた。またがんゲノム拠点病院としてがん遺伝子パネル検査を年間300-400件、提供し、そのエキスパートパネルを自施設で開催している。このように、検査前、後のフォローアップをシームレスに提供できる体制を構築している。また病院検査室内でNGSを用いたがんゲノム解析を施行可能なISO15189も取得し、がんゲノム医療を検査、診断から治療、カウンセリングまでシームレスに実施できる体制を構築し、一貫した人材育成が可能となっている。

対象者・修業年限

- がん診療に携わる医師・2年